

ヘキサケミカル

マスターバッチ（M B）の可能性を追求し続けているヘキサケミカル。着色剤M B、機能添加剤M Bのそれぞれで新製品を生み出すなどしながら、存在感をより際立たせていく。

同社は1970年5月、福井真彌代表取締役会長（CEO）を中心に大阪府東大阪市に設立。カラーコンパウンド、着色剤M B、難燃性をはじめとした機能を有する素材を高濃度に樹脂に配合した機能添加剤M Bなど、業容を広げながら発展してきた。受託、自社製品の生

高外観、自動車部品に的

産は国内、そしてタイと米国に擁する各工場で実施。自動車関連業界の活況などを背景に、すべての拠点で高稼働が続いている。

さらなる成長を目指し、さまざまな手を打っている。一つが新製品創出で、研究開発に力を入れている。

新製品では発泡剤M Bに期待を寄せる。発泡剤M Bは経済産業省の一戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）を通じ、大阪府立大学などと共同で

開発した。コアバック射出發泡成形により発泡セルサイズが微細かつ均一で、軽量、強度に優れ、高外観な発泡成形品を作ることができる。こうした利点を訴求し、自動車部品向けを軸に採用を働きかける。営業活動と並行してポリプロピレン（PP）以外の樹脂への適用を進めるなど研究開発を続けていく。

発泡剤M Bは2018年度には収益に寄与させたい考え。母材となる樹脂を用いること

同社は今年11月1日付で福井会長兼社長（CEO）が代表取締役会長（CEO）に、石井慎二常務取締役が代表取締役社長に就任した。新体制の下、従来に増して攻勢をかける。

発泡剤M Bを次の柱に